こども通信　せなひめ物語 ②

瀬名姫（築山御前）、**信康**を殺害した五人は、その後、奇怪（常識では考えられない不思議なこと）な運命をたどることになります。　家康より、殺害命令を受けた**野中重政**、**岡本時仲**、**石川義房**は、天正７年（1579）８月２９日浜松の佐鳴湖にて「殿の命により、お命 頂戴」と言って野中が**築山御前**を殺害しました。　**享年３８歳**

最近では、野中の腰の 刀 を見て「その刀は私を切るためですね」御前は用意した白絹の、うち掛けに着替え自害（自分で自分の体を傷つけて死ぬこと）した説もあります。　御前を 直接 、手にかけた**野中重政**は浜松を去った。その後、水戸の山野辺氏に仕え、野中三五郎を 襲名 し現在も水戸に残っています。この野中家では、代々女子が 狂人 になるということもあって**西来院**への築山御前の供養を続けたという,その墓前には野中家より寄進（寺社にそなえる）された石燈籠や**手洗い鉢**が、いまでも見ることが出来ます.

西来院

築山御前の首塚

一方、信康の方には、**服部半蔵**、**天方通 綱** の２名を派遣した。半蔵に、かたみの品をたくし、介錯 を命じて、

念仏をとなえ切腹した。しかし**半蔵**は、あわれで首を切ることが出来ません、通綱が、かわって切りました。**岡本時仲**と**石川義房**の方は悲劇であった、二人とも奇病にかかり、五体がただれ、手足の指も落ち、死んでしまったという、このことは本人だけにとどまらず、**子孫**にまで及んだ。

石川義房は⇒二人の子は一人は罪を犯して死罪。もう一人も武田方に内通し殺され、**石川家は、絶えてしまった。**
岡本時仲は⇒与力の息子、大八は、事件を起こして処刑 され、二人の娘 がいたが狂人 となり死に、**岡本家も絶えててしまった。**信康を自決させた**服部半蔵**は、**西念**と名のり**僧**になり、諸国を廻った。江戸の四谷に**西念寺**を建て**信康の墓**も立てて供養した、半蔵は僧として 一生 を送ったわけではない、その後も家康に仕えてえて 戦っていることをみると一時的なものであったようだ．しかし半蔵の子は、辻斬りの罪に問われ処刑された…

服部半蔵

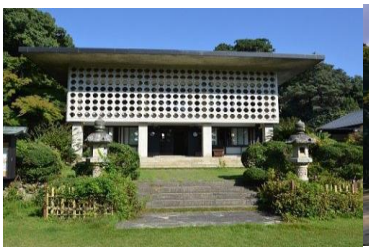
西念

西念寺

天方通綱は、発心（出家）して高野山へ入り、その後、越後に移り鞍やあぶみを作る仕事して**武士をやめた。**

築山御前は、犯罪者で、墓は作られず、石地蔵を置かれただけだった、その後、**西来院**に築山御前の墓石が作らた。愛知県岡崎市の**祐傳寺**には殉死した侍女とともに葬られたと言われる「**築山御前の首塚**」があります。愛知県岡崎市の**八柱神社**の境内の隅にも「**築山御前の首塚**」があります。

西来院



祐傳寺

八柱神社

太刀洗の池

瀬名を斬った刀を洗ったと言われる「**太刀洗の池**」は、いつまでたっても血で水が濁ったままでした「恐ろしいことだ」「御前様の恨みがこもっている」そこで人達が供養したところたちまち、もとのように、きれいに澄んだすんだ水なったと言います。この池を「**太刀洗の池**」とよび佐鳴湖のほとりになごりをとどめています。